

..... 編集後記

◆ 今年も残すところ一月弱となってしまいました。新しいカレンダーに替えたばかりと思っていたら、すっかり薄くなって残り1枚です。時が経つのは速いといいますが、年をとるにつれてその速さは一層増しているようです。今年も社会ではいろいろ出来事の多かった年ですが、皆様におきまして、出来事や変化の多い年ではなかったでしょうか。

さて、今年の締めくくりとなります今月号は、特集記事7編と一般記事6編による構成となっております。行く年を惜しみながら本誌をお読み下さい。

◆ 新潟県では、21世紀になってから2004年の中越地震、2007年の中越沖地震と大きな地震災害が続けて起きました。その間にも多くの研究がなされたので、当該地域の理解を深めて災害への備えを考えるために、新潟大学の主催で地質調査総合センターが共催となって、「新潟地域の地震災害に備える」講演会が昨年の11月に開催されました。特集記事はその時の講演会を基に紹介して頂いています。

◆ 日本海に面した新潟地域は、日本海の形成過程の影響を受けています。この日本海拡大・形成過程と断層・褶曲などの地殻変動との関係を、基調講演をされた山路氏が詳しく紹介して下さいました。

◆ 江戸時代の1828年に発生したM6.9という歴史地震の研究成果として、この地震を詳細に解明するため、都司氏は死者分布状況を利用する方法を紹介しています。一方、矢田・ト部両氏は、被害率を過去の史料から解析して、震源域を再検討した結果を紹介しています。様々なデータを過去の史料から丹念に解析していることには頭が下がります。

◆ 栗田氏は、中越地域の地質の形成史と当地の地

盤の性質を分かり易く紹介して下さいました。続いて池原氏は、その前面に広がる日本海の陸棚の特徴を紹介し、地震との関連を述べています。

◆ 広大な新潟平野は日本一の特徴を有しているようですが、その日本一とは何でしょう。小松原氏は新潟県の第四紀地質の活動史や環境を紹介し、地球の営みが見方を変えれば人間活動の恵みになるという視点を提供しています。宮地氏ほかも、ボーリング調査結果から評価した新潟平野西縁の断層活動度について、講演を振り返るように紹介しています。

◆ さて、一般記事では、斎藤氏ほかが先月号に続いて、全国で最後に残された20万分の1地質図幅の一つである「八代および野母崎の一部」の紹介をして下さいました。口絵と一緒に読んで下さい。

◆ 恒例となっている高橋氏による海外の地質情報の話題紹介です。今回は2010年春の話題ですが、いずれも興味深い話題で、視野が広がります。

◆ 酒井氏ほかは、砂泥とガスとが湧水と共に出現する現象の見られる場所を新たに見つけ、その特徴などを紹介しています。皆さんの周りにもこうした面白い現象の見られる場所はありませんか。

◆ 田中・片岡両氏は、自然の放射線を標識として利用するという提案をしています。自然素材という着眼点が、エコにつながって面白いですね。

◆ 斎藤氏ほかによる地質図を利用した今回の商品開発は、ブックカバーに利用した例です。新刊紹介では、長年地学教育普及活動をしている京都地学教育研究会の出版物を七山氏が紹介しています。

◆ この一年間のご愛読を有り難うございました。来年も引き続き宜しくお願い致します。(金井 豊)

地質ニュース編集委員会

委員長：金井 豊

事務局委員：宮内 涉

委員：重松紀生・杉原光彦・中嶋 健・森尻理恵・七山 太・酒井 彰・高橋裕平

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754 Fax. 029-861-3746

E-mail: g-news@m.aist.go.jp

地質ニュース	第676号	2010年	12月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
2010年12月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

●地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

© 2010 Geological Survey of Japan